

二〇二三年 第一回 広島大学本番レベル模試

(文・教育) 国語

解答・採点基準

全3問 120分 200点満点

第一問 (80点)

〈現代文 田島正樹『文学部という冒険——文脈の自由を求めて』〉

解答

問一 a 収奪 b 痕跡 c 妥協 d 脅威 e 懇願(惓願)

問二 日々の労働で知性も感性も生産に従属させられ疎外された結果、自らの感性や欲望に確信が持てなくなり、余暇に情感を発露しなければ自己確認ができないから。

問三 感性の全体主義的管理

問四 ウ

問五 1 ルサンチマン的聴取者が、野放図な感情の解放の背後に自由な主体性を見て取り、これを否定し抑圧している点。

2 自然の快楽を理解しながらも前文明的な模倣を削除し、支配のために自然を抑圧することで、そもそも対象を理解しない類型と似通ってしまっているから。

問六 それら禁くるタイプ

問七 生きた伝統との直接の連続性を欠いており、古典を現代の文脈に生かすことも、同化や一体化により自然を制御する模倣も拒み、全てを物質化する現代の傾向から保護してくれる滅菌済みの芸術という理想に逃避するから。(百字)

採点基準

- ▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。
- ▼ 小問ごとに、**加点法・減点法併用**で採点する。**0点**以下になった場合、その問は**0点**とする。
- ▼ 「Xという内容(？点)」の項目は、答案全体がどのような文章構成であるかに関わらず、**答案の一部に要素Xが含まれているかどうかを判断する。**
- ▼ 「X1とX2がYという論理関係になっていなければ、**？点減点**」の項目は、**要素X1とX2が両方とも揃っている答案だけを判断の対象にする。**つまり、X1とX2のいずれかでも欠けている場合は、Yについての減点はしない(Yの欠けによって失点しているので、さらに減点する必要はない)。
- ▼ 各々の採点項目について、**マルかバツかの二択で判断すること。**誤字脱字以外の部分点は原則として認めない。

問一 各2点 計10点

- a 収奪 b 痕跡 c 妥協 d 脅威 e 懇願(惻願)

* 部分点なし。

問二 10点満点

1. 日々の労働において知性も感性も生産に従属させられ、**疎外**されている、という内容(4点)
 - * 「日々の労働」にあたる語句がなければ、不可。
 - * 「知性」と「感性」は、「精神や注意力」「知性や欲望」などと書かれていても許容する。
 - * 「生産への従属」と「疎外」のいずれかに当たる内容が欠けている場合、**2点減点。**
 2. **1の結果**、自己自身の感性にも欲望にも**確信**がもてなくなっている、という内容(2点)
 - * 「自己自身」に「確信をもてない」ことが説明できていればよい。幅広い表現を許容する。
 3. (余暇に) **情念を爆発させること**でしか自己確認ができない、という内容(4点)
 - * 「情念を爆発」は、「情感を発露」「情念を解放」といった、本文に基づく他の表現でもよい。
- * 文末が「〜から」「〜ので」「(もしくは、問いのカテゴリーに対応する答え)」になっていなければ、**1点減点。**

問三 8点満点

1. **感性の全体主義的管理**

* 部分点なし。

問四 6点満点

1. **ウ**

* 部分点なし。

問五

1. **10点満点**

1. ルサンチマン型は、野放図な感情の解放の背後に自由な主体性を見て取る、という内容 (5点)
* 「ルサンチマン型」に相当する主語が欠落している場合、2点減点。
2. ルサンチマン型は、自由な主体性を否定し抑圧する、という内容 (5点)
* 「拒否する」「嫌悪する」「脅威として予感する」など、本文に基づく多様な表現を許容する。
* 文末が「〜点」(もしくは、問いの 카테고리 に対応する答え) になっていなければ、1点減点。

2 12点満点

1. 自然(の快樂)を理解している、という内容 (2点)
2. 前文明的な模倣を拒否し、自然を支配するために抑圧する、という内容 (5点)
* 「前文明的な模倣」の拒否や削除に触れていない場合、2点減点。
* 「自然を支配するために」という目的の説明が欠落している場合、2点減点。
3. 1・2の結果、そもそも自然を理解しない者たちに似てしまっている、という内容 (5点)
* 文末が「〜から」「〜ので」(もしくは、問いの 카테고리 に対応する答え) になっていなければ、1点減点。

問六 8点満点

1. それら禁くるタイプ
* 部分点なし。

問七 16点満点

1. 生きた伝統との直接の連続性を欠いている、という内容 (4点)
* 「生きた精神の欠如」という表現でも可。
 2. (古典的) 作品を現代の文脈の中に生かさうとしない、という内容 (2点)
* 「生かす文脈を見出し得ない」など、ルサンチマン型ではなく「最後の類型」に当てはまる記述をしている場合、不可。
 3. 同化・一体化によって自然を制御する模倣を拒否する、という内容 (2点)
* 単に「模倣」とだけ書いて、「同化・一体化」を説明していなくとも許容する。
 4. 滅菌済みの芸術(という理想)、という内容 (4点)
 5. 4が全てを物質化する現代の傾向から保護してくれるものであると考え、そこに逃避する、という内容 (4点)
* 「逃避」の語が欠落している場合、2点減点。
* 文末が「〜から」「〜ので」(もしくは、問いの 카테고리 に対応する答え) になっていなければ、1点減点。
- * 解答が一〇〇字以内に収まっていない場合は0点。

第二問 (70点)

〈古文 『西行』〉

解答

- 問一 ①過去の助動詞「けり」の已然形の一部。
②完了の助動詞「つ」の已然形の一部。
③受身の助動詞「らる」の連用形の一部。
④ラ行四段動詞「重なる」(二度重なる)の已然形の活用語尾(一部)。

- 問二 ア お情けがまきかなくはあるまい
イ 手の届かない恋をして懂れたことよ
ウ よく知られた伊勢へ参詣申し上げたい

問三 想いを告げた手紙への女院の返事が理解不能なものであったから。

問四 天に花咲き 〴〵 御情けなり

問五 十五夜の名月を見て、手の届かない女院への恋慕から物思いにふける乗清の心。(三十六字)

問六 b

- 問七 1 禁漁の地である伊勢の浦で、阿漕が隠れて漁をすることも、度重なると露見する。
2 乗清が毎月十五日に女院を垣間見に隠れて阿弥陀堂にやって来ることは、度重なると露見する恐れがあつて危険だということ。

問八 恋に応えられない女院はせめて姿だけでも見せることを許し慰めとさせたが、それが度重なるほどの恋情を乗清が見せたので、「あこぎ」の一言でそれとなく危険を知らせた。(七十九字)

採点基準

▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。

▼ 小問ごとに、減点法で採点する。0点以下になった場合、その問は0点とする。

問一 各3点 計12点

* それぞれ部分点なし。

問二 12点満点

ア 4点満点

1. 「御情けなくはくあらじ」を、「お情けがなくはあるまい」「薄情ではないだろう」などと訳せていなければ、3点減点。

* 「御」は不問。「じ」は「まい」「ないだろう」など。

* 「情け」は「憐れみ」「好意」など。「情けなし」で一語と取ってある場合は、「薄情だ」「非情だ」「すげない」「冷淡だ」など。

2. 「よもく(じ)」を「まさか(ないだろう)」「よもや(ないだろう)」「などと訳せていなければ、1点減点。

イ 4点満点

1. 「及ばぬ恋をして」を「手の届かない恋をして」などと訳せていなければ、2点減点。

* 「及ばぬ恋」をそのままにしてあったら、この項目は点数を認めない。訳は「叶わぬ恋」「身分不相応な恋」など広く認める。

2. 「憧れる事よ」を、「憧れたことよ」などと訳せていなければ、2点減点。

* 過去「ける」の訳がなければ、1点減点。「事よ」を感動・詠嘆で訳していなければ、1点減点。

ウ 4点満点

1. 「聞こゆる伊勢へ」を、「よく知られた伊勢へ」などと訳せていなければ、2点減点。

2. 「参詣申さばや」を、「参詣申し上げたい」などと訳せていなければ、2点減点。

* 「申す」は「参詣する」「参拝する」としてあれば、謙譲語の訳は不要。

問三 5点満点

1. 「女院からの返事が理解不能なものであった」という内容がなければ、3点減点。

* 「返事」は「手紙」でよい。返事が「女院から」のものだという指摘が欠けていれば、1点減点。女院からの返事が「想いを告げた手紙」に対するものだという内容がなければ、2点減点。

3. 「なぜか」という問いに答える結び方になっていなければ、1点減点。

問四 4点

* 部分点なし。

問五 8点満点

1. 「十五夜の月を見て」という内容がなければ、**2点減点**。

* 「十五夜の月」は「満月」「望月」でも可だが、ただ「月」のみとしたり、「三五夜の月」のままにしたりしていた場合、**1点減点**。

2. 「手の届かない女院への恋慕」という内容がなければ、**4点減点**。

* 恋慕の対象が「会えない」「手の届かない」存在であるという指摘のないものは、**1点減点**。恋慕の対象が具体的に「女院」と書けていないものは、**1点減点**。「恋慕」は「惚ぶ」「思い出す」でも可。

3. 「物思いにふける乗清の心」という内容がなければ、**2点減点**。

* 「物思ふ」の要素が欠けている場合は、**1点減点**。「乗清の」の指摘がないものは、**1点減点**。

4. 「く者の心」とはどのようなものかという問いに答える結び方になっていなければ、**1点減点**。

* 解答が四〇字以内に収まっていない場合は**0点**。

問六 **4点**

* 部分点なし。

問七 **計14点満点**

1 **7点満点**

1. 「伊勢の国阿漕が浦に引く網も」の大意として「禁漁の地である伊勢の浦で、阿漕が隠れて漁をする**ことも**」という内容がなければ、**3点減点**。

* 「阿漕が浦」が「禁漁の地」であるという言及がなければ、**1点減点**。阿漕の漁が「隠れて」行われたものだという指摘がなければ、**1点減点**。「引く網」が漁のことだとわかる記述になっていなければ、**1点減点**。例えば、「魚を獲るために網を引く」などは漁のことだとわかる。

2. 「度重なれば現れずする」の大意として「**度重なると露見する**」という内容がなければ、**4点減点**。

* 「ば」を確定条件の原因の意で取っていたら、**1点減点**。「現れずする」の解釈として「露見する」「発覚する」「表沙汰になる」「表に出る」などという記述がなければ、**3点減点**。

2 **7点満点**

1. 「乗清が毎月十五日に阿弥陀堂にやって来る**こと**」という内容がなければ、**4点減点**。

* 「乗清が」の主語を欠くものは、**1点減点**。女院を垣間見に阿弥陀堂に来るのが「毎月」「十五日」という指摘がなければ、**2点減点**。乗清がやって来るのが「阿弥陀堂」という指摘が欠けていければ、**1点減点**。

2. 「女院を垣間見に隠れて」という内容がなければ、**1点減点**。

* 「女院を垣間見に」は「女院を見に」でよいし、「隠れて」やって来るという指摘も必須としない。「**度重なると露見する恐れがあつて危険だ**」という内容がなければ、**2点減点**。

* 和歌を踏まえて「露見する恐れがある」としていない場合は、**2点減点**。「危険だ」など、「我らが大事」を反映させた記述は必須としない。

4. 「どうどういとか」に答える結び方になっていなければ、**1点減点**。

問八 **11点満点**

1. 前提として「恋に伝えられない女院」などの内容がなければ、**2点減点**。

* 女院は乗清の想いに応答できないという指摘があればよい。

2. 女院の応え方の一つ目として「せめて姿だけでも見せることを許し慰めとさせた」などの内容がなければ、**3点減点**。

* 「姿を見せることを許した」などの記述がなければ、この項目は得点を認めない。その記述があった上で、「姿を見せることを許した」について「せめてくだけでも」「くだけ」「くのみ」などの限定がなければ、**1点減点**。

3. 「それ（＝乗清の阿弥陀堂詣で）が度重なるほどの恋情を乗清が見せた」などの内容がなければ、**2点減点**。

4. 女院の応え方の二つ目として「あこぎ」の一言でそれとなく危険を知らせた」などの内容がなければ、**4点減点**。

* 「それとなく」はなくとも可。

* 解答が八〇字以内に収まっていない場合は**0点**。

第三問 (50点)

〈漢文 『莊子』・白居易「不來飲酒七首・其七」〉

解答

問一 a いはゆる(いわゆる) b ああ c と d しばらく

問二 精神を無限の空間に遊ばせながら、身は有限の地にあるというのは、あるようで、ないようなものではないですか。

問三 蝸牛の角の上で触氏と争った蛮氏と、斉を伐とうか悩んでいる恵王は、大局的に見れば些細なことにこだわり争っている点で同じであり、兵を起こす非を説くものと受け取った。

問四 令_ム二人_{ヲシテ}心力_ヲ勞_セ (別解: 令_ム二人_ノ 心力_{ヲシテ} 勞_セ)

問五 イ

問六 寄ってきて酒を飲む方がよい。

問七 エ

採点基準

▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。

▼ 小問ごとに、減点法で採点する。0点以下になった場合、その問は0点とする。

問一（各2点 計8点）

* それぞれ完答のみ。

* **すべて平仮名で解答していなければ不可。**

問二（10点満点）

1. 「若く若く」を比況で「く」のようだ」などと訳していなければ、**4点減点。**

* どちらか片方の「若」を違う意味で訳していたら、**2点減点。**

2. 「存」を「ある」「存在する」、「亡」を「ない」「存在しない」などと訳していなければ、**2点減点。**

* 「存」または「亡」のどちらかが訳せていなければ、**1点減点。**

3. 「乎」を疑問で「か」などと訳していなければ、**1点減点。**

4. 傍線部の主語として、「精神を無限の空間に遊ばせながら、身は有限の地にあるということ」などと記述した内容がなければ、**3点減点。**

問三（10点満点）

1. 恵王の行いとして「斉を攻めようか悩んでいる」などと記述した内容がなければ、**1点減点。**

* 「斉と争っている」「斉を攻めようとしている」といった表現でも可。

2. 蚩氏の行いとして「かたつむりの角の上で争った」などと記述した内容がなければ、**1点減点。**

3. 恵王が考えたこととして「蚩氏と自身が同じであることに気がついた」などと記述した内容がなければ、**2点減点。**

* 「蝸牛角上の戦いと、自身の戦いが同じであることに気がついた」などとしていても可。

4. 蚩氏と恵王の共通点として「大局的に見れば小さなことで争っている」などと記述した内容がなければ、**3点減点。**

5. 兵を起すことについて、「非を悟った」「非に気づかされた」などと記述した内容がなければ、**3点減点。**

6. 「どのように受け取ったのか」という問いに答える結び方になっていなければ、**1点減点。**

問四（6点満点）

1. 返り点の誤りは、**4点減点。**

2. 送り仮名の誤りは、漢字一つにつき**1点減点。**

問五（5点）

問六（4点満点）

1. 「不如」を「くの方がよい」「くの方がましだ」などと訳していなければ、**2点減点。**

2. 「来」を「来る」「寄ってくる」などと訳していなければ、**1点減点。**

3. 「飲酒」を「酒を飲む」などと訳していなければ、1点減点。

問七 (7点)